

# デマンドバスなどの実証運行スタート 「便利で使いやすい公共交通」めざし吉川区等3区で

7月1日から安塚区、頸城区吉川区の3つの区内でバス路線の変更などに伴う実証運行が始まりました。



この実証運行は、上越市総合交通計画に基づいて「便利で使いやすい公共交通に変えていく」のがねらいです。具体的には、通勤・通学を重視し、バスの運行間隔及び運行時間帯をJRやほくほく線に合わせる、コミュニティプラザを利用した交通拠点をつくることなどをめざしています。実証運行は来年3月末まで。利用者の視点に立って、運行の良し悪しを検証することになります。

今回、吉川区内では、鵜の浜線が廃止され、新たに上下浜線が設けられたほか、山直海線の一部区間の日中、夕方の一定時間帯で、初めてデマンド（予約）型運行方式が採り入れられました。運行ダイヤはJRやほくほく線との接続を意識したものへと変わりました。

バス路線の一部見直しなどに伴う実証運行が始まった1日。吉川区では、新幹線・交通政策課の職員や総合事務所の担当グループ職員が特別の体制をとってダイヤの点検や利用者案内などにあたっていました。午後3時過ぎ、私は市役所木田事務所から総合事務所正面玄関前のバ

ス停に行ってみました。ここからのお客は泉谷・勝穂循環線（画像の1名だけでしたが、3つの路線を走っているバスが次々と到着して出発する、その光景はまるでバスターミナルといった雰囲気でした。

今回の実証運行での注目点のひとつはデマンド型バスです。山直海線は、村屋（または尾神）と総合事務所の間の合計8便については乗るための予約が必要となります。1日のデマンド便の運行状況ですが、総合事務所から山直海方面行きは乗車する人がいて運行されたそうです（最終便は未確認）。いままでもバスが走っていたのに走らなくなるとさみしいなと思っていましたので、ホッとしました。今回のバスダイヤ改正について、「通学のためには便利になつたかもしれないが、吉川診療所へ行くには不自由になって困った」などという声も寄せられています。具合の悪いところがあつたら、遠慮なく総合事務所総務・地域振興グループに伝えてください。

## 「手づくり自治区」に共感

市主催の地域自治フォーラムが先月27日、春日謙信交流館でありました（画像）。「身近な地域からはじめよう！わたしたちのまちづくり」がテーマ。市内外から約150人の人たちが参加しました。



第一部は明治大学の小田切徳美さんの「『小さな自治』がつ

くる地域の未来」という講演です。講演のなかで小田切さんは、「いま求められている新しいコミュニティは行政主導、行政の下請け化から自立した自治区。地域の仲間とともに手づくりで未来を切り開いていく手づくり自治区だ。自立した小さな自治づくりは大きな幸せづくりにつながっていく。身近なところで物事を決めていく過程に参加していく、そこに喜び、幸福感が生まれる。この幸福感はそれぞれの住民の参加度によって決まる」と訴えました。



【トリアシショウマ】春の山菜、「トリアシ」の花です。緑と白のコントラストがいいですね。

第二部は市内での事例発表です。地域の宝を再発見して地域づくりに生かしている直江津、高田の取り組み、地道にこつこつとまちづくりを進めている大潟区や浦川原区の事例はいずれも小田切さんの話とかみ合っていて、参考になりました。

## 梶の複合福祉施設のオープン

来年の5月に予定変更

上越市社会福祉協議会が梶地内に計画している複合福祉施設のオープンが当初よりひと月遅れて来年5月になる見通しとなりました。

同施設は地域福祉活動の核となる地域の高齢者、障害者、児童などが自由に使えるサロンを設置するほか、通所介護サービス（柿崎、大潟、頸城、吉川の4区を対象。定員30人）、短期入所サービス（上越市全域を対象。定員15人）を行います。

同施設は鉄骨一部二階建。先月の入札の結果、大島・ハート共同企業体が2億7090万円を受注しました。工期は来年3月末まで。職員は当初計画より若干少ない20数人の予定。



NO 1404  
2009.7.5

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一  
TEL 548-3628 (有線) 4867  
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
URL http://www.hose1.jp/